

三平代表コラムNO. 29

新年度が始まる4月は、入社・入学など新しい生活がスタートする季節でもあります。その新生活を祝うかのように咲き誇る桜の開花を、日本人は格別の思いを持って毎年待ち望んでいます。

私たちにとって桜とは、そのはかない美しさを自分の人生と重ね合わせ、限りある人生の短さを考えさせられるものです。そして、だからこそ桜のように人生の花を咲かせ、多くの人々に幸福を与え、誇りを持って自らの人生を全うしたいと思いをめぐらせるのでしょうか。

桜がつぼみから少しずつ花開き満開になっていく様子に心をときめかせ、春の到来を感じることが出来ることを心から嬉しく思います。そして、満開となった桜を楽しみ、散っていく様子も美学の心情に訴え、感動を呼びます。

桜が満開をむかえるこの時期桜の名所ではお花見が盛んになります。友人や職場の同僚などと、朝から場所取りに奮闘する様子は、春の風物詩となっています。日本人が、これほどまでにお花見を楽しみ、夢中になるのは、ただ宴会を楽しむイベントとしてや桜の美しさに感動することだけではなく、一人ひとりそれぞれの心情に、短い期間に咲き乱れ散っていく桜に、特別の思いを持って自らの人生のあり方を投影しているからではないでしょうか。

日々目の前の仕事や家庭生活に追われ、時間に余裕のない生活を送っていると感じている方も、ひと時桜を愛で楽しみながら、立ち止まって来し方行く末に思いを巡らすのもよいのではないのでしょうか。

自宅近くの練馬から武蔵大学のある江古田付近まで千川通り沿いは、桜を身近に楽しめるところで、毎年楽しみにしています。休みの日と満開のタイミングが合えば、二駅先まで歩きながら桜を楽しみます。この時期、何にも代えがたい至福のひと時です。途中の桜台駅近くには「桜の碑」も建立されていて、文字通り桜の名所といえるところで、この時期の最高の散歩コースとなっています。新年度を迎え、慌ただしい中ではありますが、心をリセットして、桜を楽しみつつ、自らの人生を振り返る心の余裕を持ちたいものです。

三平 和男